

政治倫理検討委員会開催のお願い

足立区議会議長 金田ただし様

私（長谷川たかこ）は、現在、鈴木あきら議員、 議員、小椋しゅうへい議員より、議員活動の阻害及び人権侵害を受けています。このことについて足立区議会の全議員の皆様を知ってもらいたく、また、この内容を議会で取り上げ、足立区議会で適正に対処をお願いいたしたく提出するものです。

私は3期10年足立区議会議員をして参りました。

1期目当選してから、同じ政党の同じ会派の男性議員から壮絶なパワーハラスメントを受け続けておりました。任期4年中は、自分が所属する民主党都連・本部に相談、要望書を提出しましたが対応されず、当時の会派の男性議員達にも相談をしましたが、まったく解決されませんでした。2011年の統一地方選挙でこの議員が落選をするまで、私に対するパワハラは続きました。

しかし、現在でも同じ会派を組んでいたメンバー鈴木あきら議員、 議員、小椋しゅうへい議員から、執拗なマタニティハラスメント、モラルハラ

メントを受けています。

(1) 会派解散

2017年12月28日仕事納め式で席に着いたときに、突然、隣に座っていた会派幹事長 小掠しゅうへい議員より会派会議を行うと言われました。しかし、既に予定がある旨をお返事しました。通常、会派会議を行う際には、数日前にメールで連絡が来ることになっています。仕事納め式が終了し、区議会事務局にお願いをしていた資料を受け取るために事務局で待っていると小掠しゅうへい議員が私のそばに言葉もかけずに終始、ぴったりとくっついており、私の動向を伺っていました。

私が会派室に入るや否や、突然に会派会議と言われ「会派解散をします。はい、3対1で議決しました。」と幹事長の小掠しゅうへい議員より、突然一方的に言われました。

鈴木あきら議員からも「3対1で決まったから解散だ。」と言われたので、私からは「勝手に何を言っているのですか？ 立憲民主党に小掠さんが行かれたなら会派解散ではなく、民進党会派から離脱するのが筋ですよ。同意できません。」と言い、すぐに会派室を出ました。

夕方、自民党の足立区議会議長より連絡があり、三人で会派解散の届け出があったと話を受けました。しかし、私は民進党会派解散については全く同意を

していません。

(2) 妊娠・出産後に受けている内容

- ① 私の妊娠期間中に会派会議で、出産後の母乳の搾乳やケアについて、ご相談の話をしました。本会議での定例会や予算・決算特別委員会などの長時間での仕事は、途中母乳を搾乳しないと間に合いません（乳腺炎になってしまう為）。しかし、話の途中で〇〇議員よりセクハラになるからこれ以上話さないでほしいと言われ、その時にいた鈴木あきら議員や小掠しゅうへい議員も終始無言の為、私自身、今後、将来的にどのような部屋を使って搾乳すればいいのか、会派の環境整備などの具体的な話が〇〇議員の言葉でその後もずっとできなくなってしまいました。その後も話をしようとする、男性議員達から嫌な顔をされるため、まったく話ができない状態となりました。

② 妊娠期間中の所属特別委員会での事例

2016年出産前に「待機児童・子どもの貧困対策特別委員会」委員長だった公明党のいいくら議員から「産前産後期間中も文書質問ができるよう委員会として対応をしたい。如何ですか。」とのお話を頂きました。そして、民進党会派幹事長小掠しゅうへい議員を公明党会派室に呼んで委員長から話を進めて下さいました。その後、私が所属会派室でその話をすると

幹事長小掠しゅうへい議員と副幹事長[REDACTED]議員は、公明党の議員やその案についてバカにした表現をし、私がこの話を進めたくても全く議論にもならず、流されてしまいました。

③ 2017年1月31日全員協議会の事例

時系列で述べますと、生後4か月（2016年9月生）の娘の預け先が急遽なくなり（保育園、シッター会社、区が委託しているところも含めて断られる）困った為、区議会事務局に連絡をして、子連れで出席できるかを質問しました。

自民党、公明党、共産党の会派の幹事長達が特例で赤ちゃんを連れての全員協議会への出席を認めて下さいました。しかし、同じ会派の男性議員達（鈴木あきら議員、[REDACTED]議員、小掠しゅうへい議員）からは、絶対にダメだと反対され、子連れでの全員協議会への出席を阻止されました。

また、区議会事務局では、私が所属する民進党会派の幹事長小掠しゅうへい議員に連絡を入れた模様で、幹事長小掠しゅうへい議員から私に対する電話連絡での第一声が大声で「人に恥をかかせて！！」であり、私は一方的に小掠しゅうへい議員より怒鳴りちらされました。電話での最中、ずっと一方的に攻め続けられ、強烈なマタハラを感じました（私自身、小掠しゅうへい議員によるこの言葉の暴力で体調不良になり、母乳の出が悪くな

り、精神的にも鬱っぽくなりました)。

最終的に、全員協議会には共産党のぬかが和子議員や山中ちえこ議員のお取り計らいで、共産党事務の方に娘をお預かり頂いて全員協議会に出席をすることができました。

- ④ 現在でも、私が当事者として「出産議員」を取り巻く環境を改善してほしいと話をする、鈴木あきら議員、XXXXXXXXXX議員、小椋しゅうへい議員たちからは、断固として拒否され続けています。

理由は、

- 神聖な場所に子どもを連れていくべきではない。
- 集中ができない。
- 議員だから許されることではない。
- 区役所の人間がそんなことをしているのか。
- 育児だけでなく介護も含めて議論をするべきだ。

例えば、認知症になった親でウンチを垂らしている親と一緒に連れて行ってもよいという議論と同じになる。ペットロスだからウサギを連れて行ってもいいのか。

- そもそも、赤ちゃんを会派や議会に連れてくること自体が子どもに対する虐待行為だ、など。

⑤ その後の事例

「出産議員」当事者として緊急避難的な制度の確立を求め、様々な提案を「議会の在り方検討委員会」にあげてもらいたいと所属会派に申し入れました。私の発言する内容をことごとくバカにし、軽くあしらい、現在もずっと議論にならない状況です（上記の認知症の親…。という発言をされました）。

赤ちゃんが会派控室にいると集中できないと言われており、会派控室に赤ちゃんを連れていくこともできません。赤ちゃんを会派控室や議会に連れてくること自体が子どもに対する虐待だと私は何度も言われ続けています。

これらのことにより、一議員として、「出産議員」当事者としての声は全く議会では反映されません。鈴木あきら議員、XXXXXXXXXX議員、小椋しゅうへい議員によって議会改革の発案を阻止し続けられています。

議員であっても、子どもを産み、育てやすい環境を作っていきたい、その想いで私は声を上げ議会改革を超党派の議員たちと議論したいと思っていますが、この3議員たちによって、その術を意図的に閉ざされてしまっています。

鈴木あきら議員、XXXXXXXXXX議員、小椋しゅうへい議員からの執拗な嫌がら

せ、卑劣な差別が現在もさらにエスカレートしており、12月28日をもって、私を所属会派から排除するために、私の同意がない状態で会派解散手続き書類を議長に提出するという暴挙に出ました。

どうかこの件を会派内の問題として位置づけないでください。

皆様に、この状況を把握して頂きたく存じます。何卒、政治倫理検討委員会を開催して頂き、その俎上にあげてもらい、改善に向けたお力添えを切にお願いしたいと存じます。

2017年12月30日

足立区議会議員 長谷川たかこ

